

札幌
入荷

オニカマス／ドクカマス〔カマス科〕



鑑別のポイント

- ① 尾鰭後縁中央部が2箇所突き出ている
- ② 尾鰭、第2背鰭、尻鰭の先端(→)が白い
- ③ 体側上半部に不明瞭な黒色横帯

学名 *Sphyraena barracuda*

英名 Great barracuda

体長 最大1.5m

分布 南日本、東部太平洋をのぞく全世界の熱帯海域

毒性 シガテラ毒。詳細については、6頁参照。

取扱い 1953年(昭和28年)に厚生省通知(衛環発第20号)で販売禁止。

その他 諸外国では、単にBarracudaと呼ばれる。オオカマスに似ている。

1976年(昭和51年)9月9日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

— 類似の食用魚 —

オオカマス



体長 90cm

分布 琉球列島～インド・西太平洋

横帯が似ているが、尾鰭の形が違う。

イシナギ／オオクチイシナギ〔スズキ科〕

肝臓を除去したものは販売可

札幌
入荷

小型魚



大型魚②

鑑別のポイント

共通項目▷前鰓蓋骨(→)に鋸歯(細かいギザギザ)

小型魚▷① 5本の白色縦線

② 尾鰭外縁部(→)が黄色

大型魚▷① 体表に白色縦線の名残がある

② 尾鰭後縁は截形(せつけい)

③ 腹鰭は胸鰭基部の真下から始まる

学名 *Stereolepis doederleini*

英名 Japanese giant seabass

全長 2m

分布 北海道から高知および石川県までの沿岸

毒性 肝臓にビタミンAを過剰含有。症状は、頭痛、嘔吐、発熱、皮膚剥離等

取扱い 1960年(昭和35年)厚生省通知(公環発第25号)で販売禁止。ただし、肝臓を除去したものは販売可。

その他 札幌市中央卸売市場への入荷頻度は高い。
イシナギだけでなく、サメ、マグロ、ブリ、カンパチ等の大型魚の肝臓はビタミンAを過剰含有しており、中毒を起こすことがあるので食べないこと。

— 類似の食用魚 —

小型魚は、ソイ類、特にシマソイに似る。
大型魚はニュージーランドオオハタに似る。

シマソイ



体長 30cm

分布 岩手県～北海道、
朝鮮半島

シマソイの縞は黄色。
尾は円形。
イシナギの縞は白色。

ニュージーランドオオハタ

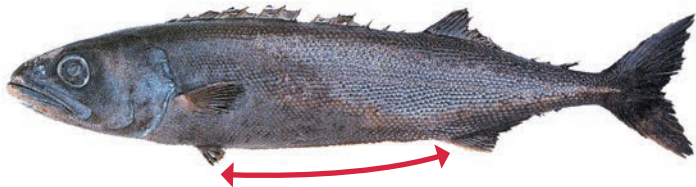


体長 60cm

分布 ニュージーランド、チリ、パタゴニア

上部がこげ茶色、下部が茶色のツートンカラー。
尾は截形。

バラムツ [クロタチカマス科]



鑑別のポイント

- ① 棘状の鱗
- ② 腹面の骨質隆起縁 (↔)
- ③ 深海魚特有の目 (キンメダイに似る)

学名 *Ruvettus pretiosus*

英名 Castor oilfish

全長 2m

分布 南日本太平洋側、温帯・熱帯海域

毒性 ワックスによる下痢

取扱い 1970年(昭和45年)厚生省通知(環乳第83号)で販売禁止。

アブラソコムツ〔クロタチカマス科〕

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 尾部(→)に大きな隆起縁
- ② 側線が著しく波打つ(右図参照)



学名 *Lepidocybium flavobrunneum*

英名 Escolar

全長 1.5m

分布 南日本太平洋側、全世界の温帯・熱帯海域

毒性 ワックスによる下痢

取扱い 1981年(昭和56年)厚生省通知(環乳第1号)で販売禁止。

その他 鱗は、有孔管状鱗(鱗に穴があいている)と呼ばれるが、見てもよく分からない。表面にワックスが染み出しており、触ると、手が水をはじくようになる。2001年(平成13年)10月18日、2018年(平成30年)9月4日札幌市中央卸売市場に入荷～販売禁止。廃棄。

アオブダイ〔ブダイ科〕

別名：イラブチャー（オオバチャー）

札幌
入荷

鑑別のポイント

- ① 背鰭、尻鰭、尾鰭の辺縁部が濃青色
- ② 尾鰭は截形（せつけい）又は円形
※上記写真は尾鰭が截形の個体
- ③ 歯は結合して鳥のくちばし状

学名 *Scarus ovifrons*

英名 Blue humphead parrotfish

体長 65cm

分布 東京～琉球列島

毒性 パリトキシン様毒等。筋肉も有毒。症状は筋肉痛、舌や全身のしびれ、呼吸困難等。死亡する場合がある。

取扱い 1997年（平成9年）厚生省通知（衛乳第281号）で販売自粛。

その他 長崎県、三重県等で死亡例あり。
老成魚は額にコブがあるが、若魚にはない。ナン
ヨウブダイが似ている。
2002年(平成14年)4月13日札幌市中央卸売市場に
入荷(愛媛県産)～廃棄。

— 類似の食用魚 —

ナンヨウブダイ 別名:オオバチャー



体長 55cm

分布 琉球列島～ハワイ諸島を除く
インド・西部太平洋

尾鰭の両端(→)が長く伸びる。

ゴマシズ〔マナガツオ科〕



学名 *Stromateus brasiliensis*

体長 40cm

分布 南アメリカ
大西洋岸

ホシゴマシズ〔マナガツオ科〕



学名 *Stromateus stellatus*

体長 25cm

分布 南アメリカ
太平洋岸

共通鑑別のポイント

- ①形はイボダイに似るが、腹鰭がない
- ②体上半部に斑点が散在
- ③尾鰭2叉形(→)

毒性 油脂による下痢

取扱い 1999年(平成11年)厚生省通知(衛乳第240号)で販売自粛。

その他 「シズ」はイボダイの地方名。

札幌市中央卸売市場で 食不適魚として扱う魚

ナガヅカ／ワラヅカ〔タウエガジ科〕

別名：ホンワラ

タウエガジを含む



札幌
入荷

鑑別のポイント

- ① 頭部扁平。目は上(→)につく
- ② 下顎は上顎より前に突出
- ③ 上顎後端(→)は目の後縁を超える

学名 *Stichaeus grigorjewi*

英名 Japanese prickleback

体長 60 cm

分布 北日本～日本海北部、オホーツク海

毒性 卵巣のディノグネリンによる腹痛、嘔吐、下痢等

取扱い 卸売場の指定の場所に他の魚種とは区分して置き、魚肉練製品の原料として特定された業者に販売する。卵巣を除去したフィレは販売可。

その他 近縁種「タウエガジ」も卵巣が有毒。ナガヅカ、タウエガジは本市市場に時々入荷している。

タウエガジ

体長 約40cm



背鰭に暗色
斜走帯がある。

札幌市中央卸売市場で 販売を自粛する魚

1 シガテラ毒

ドクウツボ [ウツボ科]



鑑別のポイント

- ① 鰓穴(→)の部分が黒い
- ② 不規則な黒斑があるが、成長とともに薄れる

学名 *Gymnothorax javanicus*

英名 Giant moray

全長 1.8m

分布 琉球列島、インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い 販売自粛

その他 代表的なシガテラ毒魚。ゴマウツボ、ハナビラウツボ、ナミウツボも有毒。大型ウツボ類は、競りにかける前にしっかり鑑定した方が良い。

バラフェダイ〔フェダイ科〕 別名/アカナー



鑑別のポイント

- ①目の前部(→)に溝があり、その中に前・後鼻孔がある
- ②上顎に犬歯
- ③各鰭は黒っぽい

学名 *Lutjanus bohar*

英名 Large red mumea

体長 1m

分布 南日本～インド洋、西太平洋域

毒性 シガテラ毒

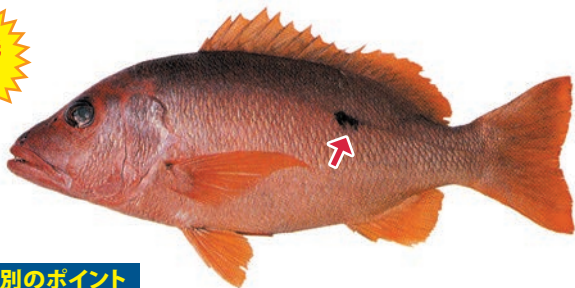
取扱い **販売自粛**

その他 未成魚は側線上部に2つの淡色斑点があるので、「フタツボシドクギョ」と呼ばれる。

イッテンフエダイ〔フエダイ科〕

別名:ヤマトビー

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 側線上に黒点(→)
- ② 口腔内上面の歯帯は三日月状 [次頁で解説](#)
- ③ 若魚の鰭は黄色

学名 *Lutjanus monostigma*

英名 Onespotted snapper

体長 60cm

分布 南琉球列島～インド洋、西太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 沖縄では、体に黒斑があるフエダイはシガテラ毒の恐れがあるので敬遠する人が多い。実際、本種による食中毒が南西諸島で多発している。クロホシフエダイと類似している。

2001年(平成13年)11月6日、2003年(平成14年)6月1日、2007年(平成19年)1月25日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

— 類似の食用魚 —

クロホシフェダイ



体 長 50cm

分 布 南日本～インド洋

クロホシフェダイで、赤いタイプのものは、イッテンフェダイと区別するのは難しい。ただし、クロホシフェダイの口腔内上面の歯帯はT字状なので、ここで区別できる。



イッテンフェダイの口の中



イッテン
フェダイ
の歯帯



クロホシ
フェダイ
の歯帯

イトヒキフエダイ〔フエダイ科〕

別名:イヌバー



鑑別のポイント

- ①頭が丸い
- ②顔に黒点
- ③幼魚は背鰭軟条(→)が糸状に伸長。成魚は短い

学名 *Symphorus nematophorus*

英名 Chinamanfish

体長 1m

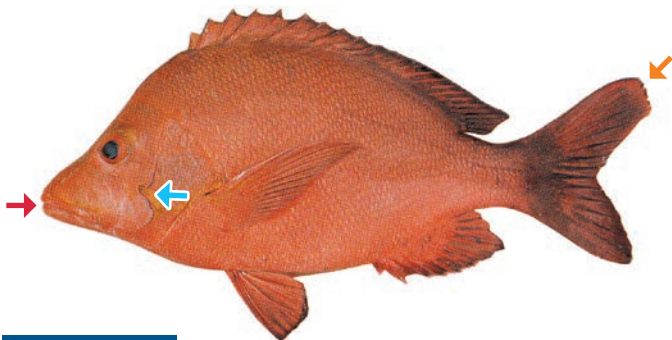
分布 琉球列島～西部太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 体重40kgにもなる大型魚。幼魚時には背鰭の軟条が糸状に伸びるため、この名前がついた。沖縄で中毒例がある。

ヒメフェダイ〔フェダイ科〕 別名:ミミジャー



鑑別のポイント

- ① 吻が突出(→) 上顎に犬歯あり
- ② 前鰓蓋骨(ぜんさいがいこつ)に明瞭な欠刻(↔)
- ③ 尾鰭上葉先端が丸い(→)

学名 *Lutjanus gibbus*

英名 Red snapper

体長 50cm

分布 鹿児島、琉球列島～東南アジア、インド洋、紅海、南アフリカ、メラネシア

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 体高が高く、上記のようなポイントを備えた魚は他にいないので鑑別しやすい。南太平洋で本種による食中毒が発生している。

アオチビキ〔フェダイ科〕 別名:オーマチ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ①体色は灰青色
- ②鼻孔のすぐ下に溝 (→)
- ③背鰭に4個ほどの黒斑

学名 *Aprion virescens*

英名 Blue-snapper

体長 50cm

分布 南日本、インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

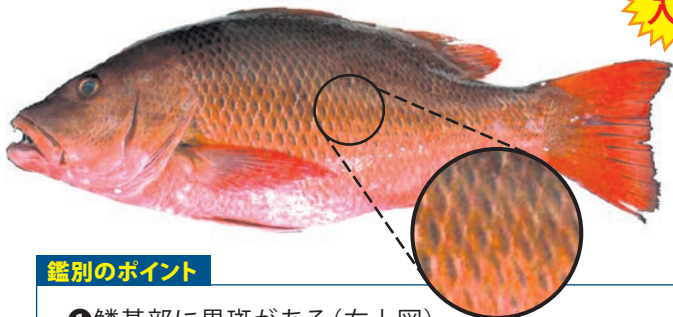
取扱い **販売自粛**

その他 特徴のある魚なので、判別しやすい。インド太平洋域で食中毒が発生している。

2002年(平成14年)10月11日、2013年(平成25年)11月30日、2018年(平成30年)6月29日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

ゴマフエダイ〔フエダイ科〕

別名:ゴマタルミ、カースビ

札幌
入荷**鑑別のポイント**

- ① 鱗基部に黒斑がある(右上図)
- ② 側線上の鱗列後方は斜め上に向かう
- ③ 体高はやや低い

学名 *Lutjanus argentimaculatus***英名** Silver snapper**体長** 60cm**分布** 南日本～東南アジア、インド洋**毒性** シガテラ毒**取扱い** 販売自粛**その他** 成魚では90cmにも達するが、老成したものは中毒を起こすといわれている。沖縄で食中毒事例あり。
2005年(平成17年)4月19日、2007年(平成19年)9月14日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

ムネアカクチビ〔フェフキダイ科〕

別名:クチナジ、
チムグチャー札幌
入荷

鑑別のポイント

- ① 吻は突出する(→)
- ② 胸鰭基部に赤色斑(→)
- ③ 頭部背縁は眼の前でわずかに隆起する(→)

学名 *Lethrinus xanthochilus*

英名 Yellowlip emperor

体長 70cm

分布 琉球諸島以南、インド洋、西太平洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 類似のホオアカクチビ(食)は主鰓蓋骨後縁に赤色斑がある。

2004年(平成16年)7月30日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

バラハタ〔ハタ科〕 別名:アズキガンモ、ナガジューミーバイ

オジロバラハタを含む

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 尾鰭が深く湾入
- ② 背鰭、尻鰭、尾鰭後縁は黄色

学名 *Variola louti*

英名 Coral cod

体長 60cm

分布 南日本～インド洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 琉球列島各地で食中毒が多く発生している。地色は赤いものから黒っぽいものまで変化が大きい。尾鰭縁部が白いオジロバラハタも、同様にシガテラ毒魚である。

2012年(平成24年)2月23日、札幌市中央卸売市場に入荷～荷主に返却。この他、過去に数回入荷がある。

マダラハタ [ハタ科] 別名:イワハタ、ユダヤミーバイ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 背中側に茶褐色の不規則なまだら模様
- ② 体全体に細かい褐色点が密在
- ③ 尾鰭付け根背部に黒班(→)
- ④ 鰓蓋後縁は平坦 [次頁で解説](#)

学名 *Epinephelus microdon*

英名 Black rockcod

体長 50cm

分布 南日本～インド洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 沖縄、南太平洋で、食中毒が発生している。毒をもつ個体が多く、小さな個体でも中毒するとされている。ヤイトハタが類似している。

2008年(平成20年)4月15日札幌市中央卸売市場仲卸売場に入荷～荷主に返却。

— 類似の食用魚 —

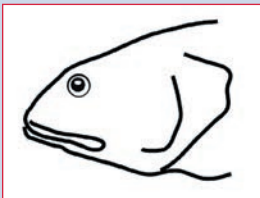
ヤイトハタ



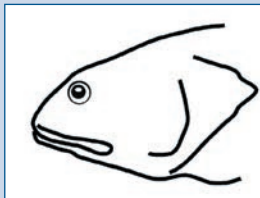
体 長 60cm

分 布 琉球列島～インド洋

ヤイトハタの斑点は黒色。密でない。
ヤイトハタの鰓蓋後縁はとがっているが、
マダラハタ、アカマダラハタの鰓蓋後縁は
平坦に近く、とがっていない。



アカマダラハタ、
マダラハタの鰓蓋



ヤイトハタの鰓蓋

アカマダラハタ〔ハタ科〕 別名:ヨダレハタ、ヨッパライ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 後頭部がくぼんでいる(→)
- ② 鰓蓋後縁は平坦 [前頁で解説](#)
- ③ マダラハタに似る。ただし、体色は赤みを帯びる
体側全体に細かい斑点が密在
- ④ 尾鰭付け根背部に黒斑がある(→)が、鮮明でない

学名 *Epinephelus fuscoguttatus*

英名 Carpet cod

体長 50cm

分布 琉球列島～インド洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 マダラハタより毒性は強いと言われる。
2003年(平成15年)4月5日札幌市中央卸売市場に
入荷～廃棄。

オオアオノメアラ〔ハタ科〕別名:オオアオノメハタ、
アカジン、ヤーラアカユ**鑑別のポイント**

- ① 青い斑点の周りに黒い縁取りがある
- ② 歯が鋭い
- ③ 尾鰭が截形で後縁が白い

学名 *Plectropomus truncates***英名** Squaretail coral grouper**体長** 1m**分布** 琉球列島～西部太平洋**毒性** シガテラ毒**取扱い** **販売自粛**

その他 全国の検疫所で輸入禁止にしている。沖縄でも食中毒事例あり(1990年(平成2年).7.20)。スジアラ(食)が似ているが、判別しづらい。鑑定は慎重に行うこと。

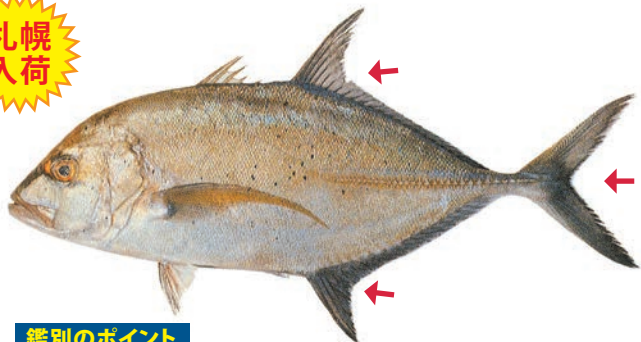
スジアラ

斑点が小さい。
尾鰭が截形またはわずかに湾入。

カスマアジ [アジ科]

別名: ガーラ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 第2背鰭、尻鰭、尾鰭(→)が青い
- ② 体表に小黑点散在

学名 *Caranx melampygus*

英名 Blue finned trevally

体長 50cm

分布 伊豆諸島、琉球列島～インド洋、太平洋域

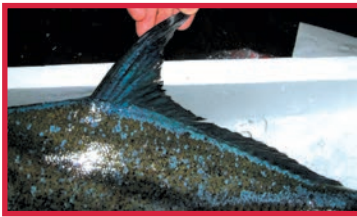
毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 ロウニンアジ(食)、オニヒラアジ(食)等似た仲間が多い。しかし、鰭が青いのはカスマアジだけ。沖縄で食中毒事例あり(1999年(平成11年).8.31)。2002年(平成14年)8月24日札幌市中央卸売市場に入荷～荷主に返却。



◁カスミアジ頭部には
斑点がある。



◁カスミアジ背鰭は青い。

— 類似の食用魚 —

ロウニンアジ



体長 1m以上

分布 南日本、
インド～太平洋域

鰭は黒っぽく、稜鱗は
黒くない。

オニヒラアジ



体長 50cm

分布 琉球列島、
インド～太平洋域

全体に銀白色。

ギンガメアジ [アジ科]

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 鰓蓋上端に小黑点(→)
- ② 脂脰が発達(→)
- ③ 成魚の第2背鰭先端(→)は白い
- ④ 稜鱗(→)が黒い

学名 *Caranx sexfasciatus*

英名 Big-eye kingfish

体長 50cm

分布 南日本～インド洋、太平洋域

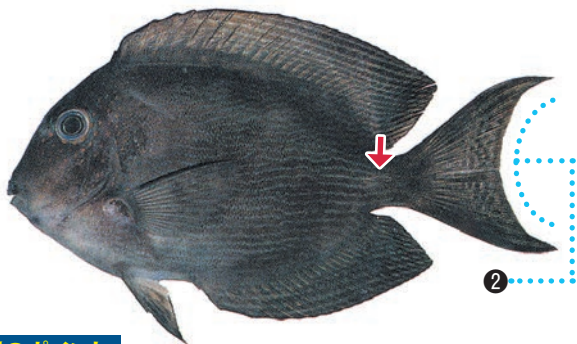
毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 小型魚は、関西ではメッキと呼ばれ、汽水域に多く、時に川を遡り食用にされている。海中では群れをなして泳いでおり、鰓蓋上端の黒点が目立つので、判別しやすい。

札幌市中央卸売市場への入荷頻度は高い。

サザナミハギ〔ニザダイ科〕 別名:トカジャー



鑑別のポイント

- ① 体側表面の縦縞が波打っている
- ② 尾柄部 (→) に1刺がある。尾鰭湾入
- ③ 歯の先端が鋸歯状

学名 *Ctenochaetus striatus*

英名 Bristletooth surgeonfish

体長 20cm

分布 南日本～インド洋、太平洋域

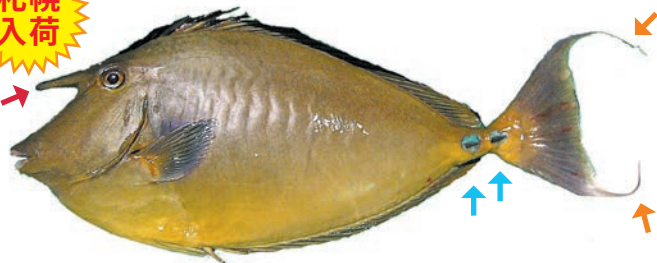
毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 代表的シガテラ毒魚。南太平洋タヒチでは、本種による食中毒が多発している。

テングハギ〔ニザダイ科〕 別名:ブタハゲ、ツノハゲ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 眼頭部に角 (→)
- ② 尾柄部の骨質板は2個 (→) で、成魚では青く縁取り
- ③ 尾鰭の両端 (→) が糸状に伸びる

学名 *Naso Unicornis*

英名 Brown Unicornfish

体長 50cm

分布 南日本～インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 熱帯海域のものはシガテラ中毒を起こすといわれている。

2006年(平成18年)9月29日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

2 パリトキシム毒

ソウシハギ〔カワハギ科〕

別名: センスルー

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 体側に青い波状紋
- ② 尾鰭(↔)は頭長(↔)より長い

学名 *Aluterus scriptus*

英名 Longtail filefish

体長 50cm

分布 相模湾以南、全世界の熱帯海域

毒性 パリトキシム毒。消化管、肝臓に毒があり、筋肉は無毒。症状は、筋肉痛、呼吸困難、痙攣等

取扱い **販売自粛**

その他 鑑別は容易である。札幌市中央卸売市場では、ウマヅラハギ、ウスバハギ等に混ざって入荷してくることが多い。大型ハギ類が入荷した時は、1尾ずつチェックすること。

2005年(平成17年) 9月26日、10月25日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

札幌市中央卸売市場にて販売可能であるが、販売者に注意喚起を要請する魚

平成20年4月1日より本市場にて取扱い開始

アブラボウス〔ギンダラ科〕



鑑別のポイント

- ① 尾鰭後縁わずかに湾入
- ② 若魚は白いまだら模様がある
老成魚もよく見るとまだら模様が見える

学名 *Elilepis zonifer*

英名 Skilfish

体長 1.5m

分布 北日本の太平洋、ベーリング海、中部カリフォルニア

— 注意事項 —

販売者は、「筋肉中に多量の脂質を含み、大量に食べると下痢するため、食べ過ぎないように注意すること。また、肝臓はビタミンAを過剰に含むため、食べないこと。」という旨の注意喚起を行う。